

学校名 豊島区立西池袋中学校

校長名 八 尋 崇

学校の教育目標

人間尊重の精神を基調に、次代の日本と国際社会を担うことのできる、たくましい、心豊かな生徒の育成を目指し、次の目標を定める。

- 自ら学び、正しく判断できる人になろう。
- 責任を重んじ、思いやりのある人になろう。
- 心身ともに健康で、強い意志で生きる人になろう。

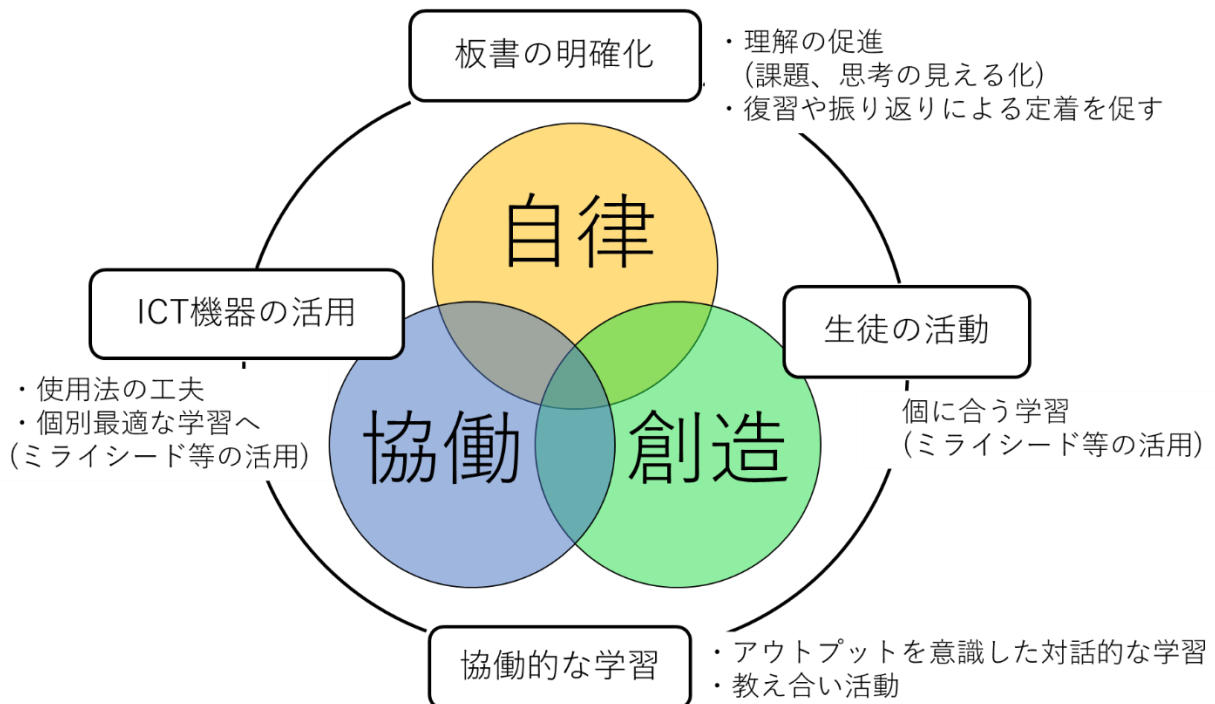
学力に関する目指す生徒像

自律（自立）・協働・創造

- ・自ら進んで、選択し、行動に移すことができる
- ・仲間を大切にし、共に活動できる
- ・他に貢献し、自己肯定感、所属意識を高める

授業改善推進プランの全体像

基礎的・汎用的な能力の育成



令和7年度 授業改善推進プラン（各教科）

1 国語科

目指す生徒像を基にした国語科で育成したい資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> ・対話や議論を通じて、協働的に問題解決をする力 ・必要な情報を取捨選択する力 ・伝える相手や状況に応じて、適切な表現をする力 ・習得した知識・技能などを創造的に日常生活に活用する力 		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	区の学力調査において、全ての領域で区の平均を下回っており、基礎学力の定着に課題がある。	漢字について小テストやまとめテストを実施し、継続的に学習する習慣を身に付けさせる。 活用力については、目的や相手を常に明確にし、モデルを例示して学習活動の見通しを持たせたいうえて学習課題を提示する。文章や作品の相互鑑賞の機会を増やす。 また、C B T等を活用し、知識・技能の定着を確認しながら授業に臨ませていく。
2年	区の学力調査において、知識の観点の「漢字の読み書き」において定着に偏りがあることがわかる。	漢字について小テストやまとめテストを実施し継続的に学習する習慣を身に付けさせ基礎学力を定着させる。
3年	学力調査の結果を見ると、表現・理解において定着に偏りがあることがわかる。	授業場面でアウトプットの活動、書く・話すを重点的に扱い、自分の考えが明確に伝わるように定着を図りながら表現力を磨く。入試に向けて、作文、小論文、面接指導なども充実させていく。

2 社会科

目指す生徒像を基にした社会科で育成したい資質・能力		
知識・技能、思考力・判断力・表現力を身に付けた上で、「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意義の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」のために主体的に学習に取り組む態度を育てる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	社会科に対して、興味関心が高い生徒と低い生徒の差がある。授業開始から集中するまでに時間がかかる生徒も多い。また、ノートにまとめていくことが苦手な生徒も見られる。	導入部で授業ルーティンを作りながら、自然と授業に入っていけるようにする。ノートをまとめる力をつけるため、板書を丁寧に行い、ノートチェックも随時行うようにする。また、I C T機器を活用した視覚的効果の高い授業を実践し、社会科への興味関心を高めていく。
2年	授業に関心を持ち意欲的に取り組む生徒も多いが、基本的知識が身につけていない生徒もいる。課題を持ち主体的に取り組もうとする姿勢は全般に弱く、自らの考えを書くことが苦手な生徒もいる。	パワーポイント、実物教材、新聞資料等を活用して、興味関心を持ち自ら進んで学ぼうという姿勢を育てる。 基礎的な事柄を定着させるため、確認テストや単元テストを実施する。 オクリンクを活用し、自分の考えをまとめ、同時

		<p>に他者の意見を知ることにより、自分の考えをより深め、必要に応じてグループ討議を行う。</p> <p>長期休業中に、自ら課題を設定し、それについて調べ、レポートにまとめさせる。</p>
3年	<p>区の学力調査より特に歴史分野の正当率が目標値より約10ポイント低く、全体の正当率の低さの原因になっている。知識分野の定着に課題が見られ、習得した知識を使って自身の考えを表現する点についても関連した課題として見られる。</p>	<p>既習内容の振り返りの場面を作り、単元毎の振り返りテストの実践により知識の定着を図る。また、複数の資料をもとに自分の考えを学習した内容をもとにまとめ、表現する機会を適宜設け、思考力、判断力、表現力の向上に努める。</p>

3 数学科

目指す生徒像を基にした数学科で育成したい資質・能力		
<p>数量や図形に関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、技能を習得し、数学的な思考力・判断力・表現力を養う。また、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、主体的に考え判断したり、習得した知識などを活用して問題解決を図ろうとしたりする態度を育てる。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	<p>学力調査では、区の平均、全国の平均を上回っている。分野では、データの利用のみ区の平均を下回っている。</p>	<p>習熟度別の小テストや単元のまとめを行い、基礎力定着のための取り組みを行う。また、必要に応じて小学校の内容の復習を取り入れる。上位層の授業では考えをアウトプットする機会を多く取り入れ、思考力・表現力を育成する。</p>
2年	<p>学力調査の結果では、校内の平均正答率が全国・区のものより上回っている。分野別に見ると、1次方程式、データの分析において課題がある。</p>	<p>個々の習熟度に合わせた問題演習を行い、計算力の育成を図る。また、応用問題について、似た内容の問題を繰り返しテストすることで思考力と表現力の向上を目指す。</p>
3年	<p>学力調査の結果では、校内の平均正答率が全国のものよりは上回っているが、区のものよりは下回っている。領域別にみると、関数やデータの活用において課題がある。</p>	<p>関数では、表やグラフが式とどう結びつくのかを視覚化して授業を行い、インプットとアウトプットを繰り返す。データの活用では、身近なデータを用いて実際に計算やグラフ化を行い、定着を図る。また、どの領域においても、内容を端的に説明できるような授業展開をする。</p>

4 理科

目指す生徒像を基にした理科で育成したい資質・能力		
自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則に関連する事象から問題点を見いだして、科学的に探究しようとする態度を育て、その過程で得られた結果を正しく分析したり、考察したりする事を通して科学的な思考力・判断力・表現力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	区の学力調査の結果から、物質、エネルギー分野の正答率が低い。基	中学校で当該領域を学習する際には、基本的な知識の定着を図る。小テスト等を細かに実施していくとともに、C B Tやミライシードのドリルパークなども活用し、定着を図っていく。また、科学的な思考の過程を授業中に明示する機会を多く作り、自らの考えに至る過程を表現する場面を作っていく。
2年	区学力調査等の結果から、地球分野、及び思考・判断・表現の観点の正答率が低い。	地球分野は、学年が変わる直前の単元だったため、知識が定着しなかったと考えられる。復習確認を行い、想起させる。思考・判断・表現については、文章の読み取り、グラフや表の読み取りの問いや課題を多く取り組ませるとともに、協働学習によって高めていく。
3年	区の学力調査より、1・2・3年と学年が上がるにつれ学力が上がってきており、3年では全国標準を上回る結果となっている。さらに思考・判断・表現力が不足している生徒も見られる。	体験的な学習を計画し、生徒同士がその考えを話し合い深めていく時間を意識的に設けていく。基本的な知識技能の定着を図る上で、授業中の演習だけでなく、C B Tやミライシードなども繰り返し行うように指導して定着を促していく。科学的な思考の過程を授業中に明示する機会を多く作り、自らの考えに至る過程を表現する場面を作っていく。

5 音楽科

目指す生徒像を基にした音楽科で育成したい資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の基本的な知識を生かして表現する力 ・音楽表現を創意工夫する力 		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	授業に対して意欲的に取り組んでいる生徒が多い。しかし、思いや意図を読み取り、言葉で表現することが苦手としている生徒もいる。	話し合い活動や発表の場を設ける。自分なりの考えをもつとともに、自分とは異なる他者の考えにも耳を傾けるなどして、他者との関わりの中から自分の考えを一層深めていく活動を取り入れる。
2年	歌唱・鑑賞の楽曲について興味をもって授業に取り組んでいる。諸要素を知覚・感受し、イメージや感情をもって言葉で表現することが苦手な生徒もいる。	曲想、音楽の構造、歌詞の内容などに触れながら、自己のイメージや感情を考えさせ、表現の工夫ができるような探求する授業を取り入れる。
3年	授業に対して、主体的に取り組んでいる生徒が多い。しかし、得た知識や技能を生かしながら表現活動を創意工夫する	声の音色や強弱について、歌い試す中で具体的にアドバイスをする。また、言葉で思いや意図を伝えられるように思考力を高めるようなプリント学習を

ことを苦手としている生徒が多い。	行う。
------------------	-----

6 美術科

目指す生徒像を基にした美術科で育成したい資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> ・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、内面にあるイメージを構想し、今までの経験を生かして表現方法を工夫する力を培う。さらに自己の中にある発想を具体化し形に表す技術を高める。 ・自然や生活の中にある造形的な美しさや表現の意図や工夫、美術の働きについて感じ取る力を育てる。 ・創造活動の喜びを味わい、生活を豊かに想像していく態度を養う。 		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	楽しんで制作に励む生徒がほとんどだが、作業速度が遅く、進度に開きがでる生徒が一定数存在する。	制作全体の見通しをもたせて作業に取り組む。毎授業ではその時間の制作目標を板書し、遅れが生じた場合は早めに放課後などに個別対応を行う。
2年	こだわりをもち、制作に取り組める生徒が多いが、一部落ち着きがなく周りの生徒が集中できないことがある。	興味や関心のもてる題材を工夫し、技法や知識を短い期間で習得しながら制作を行い達成感を味わわせる。道具の扱い方を身につけながら規律や社会的ルールの修得を目指す。
3年	熱心に関心をもち取り組む生徒が多い。知識はあるが表現に結びつけて具体化することが苦手な生徒もいる。	机間指導を細かく行い、個別に声かけややりたいことを具体化する上でのアドバイスをし、良いところを認め自信をもたせる。今までの経験を振り返る導入を行い、知識を応用しやすくする。

7 保健体育科

目指す生徒像を基にした保健体育科での育成したい資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決能力 ・情報活用・発信能力 ・協働的態度 ・多様性を尊重する態度 ・生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する力 ・心身の健康を保持増進する力 		
学年	現在の状況	具体的な取組
1	一生懸命取り組む生徒が多く、仲間と協働することのできる学年である。一方、問題に対する解決能力が低い傾向にある。	毎時間の振り返りやタブレットの活用、協働的学習を通して自己・他者による客観的な視点をもって解決する活動に取り組む。
2	主体的に取り組む場面が多いが、協働的な態度や問題発見・解決能力の向上が課題となる。	学び合いのある学習場面を設定し、互いの良さや協働的態度を引き出せるよう、ファシリテーションや指導に取り組んでいく。
3	主体的に取り組む場面が多いが、協働的な態度や問題発見・解決能力の向上が課題となる。	学び合いのある学習場面を設定し、互いの良さや協働的態度を引き出せるよう、ファシリテーションや指導に取り組んでいく。

8 技術・家庭科

目指す生徒像を基にした技術・家庭科で育成したい資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業や実習で身に付けた知識・技能を身近な生活と関連づけ、生かすことができる力 ・共同学習を通して問題を発見し、協力して解決していく力 		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	<p>関心・意欲が高い生徒が多い。一方で情報リテラシーや情報モラルへの感度が高くない生徒が多い。</p> <p>班活動・話し合い活動へ積極的に取り組むことができる。</p>	<p>住む場所に関することや身近にある材料について学び、実生活に関連させて生かす力を身につけさせる。</p> <p>タブレットを活用した授業を通して、情報リテラシーを充実させる。</p>
2年	<p>基本的な知識を身につけ、集中して実習に取り組むことができる。</p> <p>周囲への配慮や、実習活動に対して観察する力が足りないところがある。</p>	<p>自分や他者の意見を共有する機会をタブレットを活用した授業の中で設ける。</p> <p>実習を通して問題解決する能力を育成する。ICT機器の活用で実習の効率化を図る。</p>
3年	<p>班活動・話し合い活動へ積極的に取り組むことができる。</p> <p>知識を応用し自分の考えを発表したり表現したりすることが苦手である。</p>	<p>ICT機器を利用して、板書の振り返りや実習の効率化に努める。</p> <p>自分の考えを発表する機会を授業で設ける。</p> <p>情報セキュリティについて最新情報を共有し、生活と関連付け実生活に生かせるようにする。</p>

9 外国語科

目指す生徒像を基にした外国語科等で育成したい資質・能力		
身に付けた知識や技能を場面に応じて活用し、自ら進んで様々な環境で多様な人とコミュニケーションをとれるようにする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	<p>元気で素直な生徒が多く、課題に真摯に取り組んでいる。アクティビティにも意欲的で、協調性がある。</p> <p>書き取りの学習では、苦手意識を持つ生徒が多いため、「文を書くときのルール」の基礎基本を習得させる。語彙・表現力を増やし、自己表現のための応用力を身につけることが課題である。</p>	<p>毎授業開始時、small talk を実施し、即興力を育てている。本時の Goal と展開を毎授業板書し、振り返りシートを記入することで、次回への見通しを持たせている。ペアでの音読や対話、個人の発表やグループ活動を通して、話したり聞いたりする力を身につける。書き取りの学習では、机間支援を多くし、タイムリーに声かけをする。「言いたかったけれど書けなかった表現」をノートに蓄積し、調べて習得する。単元の復習として、ドリルパークも活用し、定着度を図る。</p>
2年	<p>授業内では意欲的に取り組む生徒がほとんどであるが、基礎基本の定着が不十分なことから途中で諦めてしまう生徒もいる。特に「読むこと」と「書くこと」に対して苦手意識が強く、積極的に取り組めないことが課題である。</p>	<p>ESATJを意識し、帯活動で話す時間を毎時間をとっている。また、視覚的にとらえやすいようアクションカードを使用し、英語の基本表現を繰り返し反復し、基礎基本の定着を図る。単元テストとリスニングテストを単元が終わるごとに実施し、家庭学習をしっかりと取り組むよう意識させる。</p>

3年	授業において意欲的に取り組む生徒がほとんどである。教師がテーマの設定等を行った課題に対しては概ね取り組むことができている。一方で、自分で課題を設定し、それを達成するために、身につけた知識を必要に応じて取捨選択することに苦手な傾向が見られる。	基礎的な知識を身につけるための復習として定期的な語彙の確認をする。同時に応用した学習として読むことの練習を行う。また間違いを恐れずに、自分で選んだ言葉を使って作文し発表する機会を設ける。言葉選びをする際に、今までやったことを確認しながら、言葉の引き出しを自分で調節できるようにしていく。
----	--	---

10 特別の教科 道徳

目指す生徒像を基にした道徳科で育成したい資質・能力		
道徳的な判断力を高め、実践意欲と態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	発言ができない生徒も、自分の意見を記述することはできる。 他人の意見を否定することなく多角的に考えを深めることが課題である。	意見を記述した後に小グループでの発表を行い、他者の意見を聞く機会を作りながら授業を展開する。導入や発問、展開の仕方を工夫する。
2年	教材に含まれる道徳的価値について理解しようとする姿勢は多くの生徒に見受けられるが、自分事として捉えられている生徒は一部である。積極的な発言ができない生徒も、自分の意見を記述したり、他の生徒の意見を聞いて考えようとしている。	自分事として捉えられるよう、発問や展開の仕方を工夫する。 協働的な学習を意識した授業展開を考える。 意見をアウトプットしやすい人間関係を構築する。
3年	積極的な発言はあまり見られないが、自分の意見は記述できる生徒が多く、主題を理解し考えている様子が伺える。授業で学んだことを実生活に生かそうとする態度は今一歩である。	じっくり考える時間をとり、他の生徒と意見交換する機会を作って授業を展開する。 自分の行動や生活にどうつながるか考えられるよう、発問や声かけを工夫する。

11 総合的な学習の時間

目指す生徒像を基にした総合的な学習の時間で育成したい資質・能力		
インターネットや図書、新聞等のメディアを活用しながら、必要に応じた情報を収集する力を養う。また、その情報を探求し、目的や場に応じて適切に発表・表現するスキルを育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	個の活動として、本やインターネットで情報収集し必要な情報を取捨選択しまとめることはできる。協働的な学習活動では、協働的な活動経験が不足している。	校外学習の事後学習をグループでの協働的な学習活動として設定し、スキルを育成する。 キャリア教育について、職業講話や上級学校調べなどを通じて、主体的に学習する力を育む。
2年	「上級学校調べ」「職業調べ」「職業講話」「職場体験」を実施し、卒業後の進	インターネット等を活用し、情報収集、それをまとめて掲示発表や体験をまとめ伝えることができる。

	路について考える機会を設けた。インターネットを活用し、情報収集してまとめ、様々な形で発表した。	今後は、自分で考え、情報を取捨選択する力を伸ばすことが必要である。
3年	卒業後の進路について考えたり、修学旅行の取り組みを行い、それを発表した。	修学旅行の事後にフォトコンテストやまとめ新聞をグループで作成する活動を行い、探究的な学習活動に取り組むことで、主体的・協働的な態度を育み、より良い進路選択に繋げていくようにする。

1.2 特別活動

目指す生徒像を基にした特別活動で育成したい資質・能力		
各教科の学習及び道徳や特別活動の学習を通して、物事の基本的な考え方や学び方を習得する。さらに、問題解決や探求活動へ主体的・創造的に取り組み、自己の生き方について多方面から深く考え、その実現を目指す生徒を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	中学生としての学級活動・委員会活動や部活動に真剣に取り組む、責任を果たそうとしている。	一人一役を実施する。自主性やリーダーシップが育つように、行事や学級・委員活動などで、全ての生徒に役割をもたせていく。
2年	これまでの経験から、学級活動や委員会活動、行事等に積極的に取り組み、責任を果たそうとしている。	学年独自の行事を設け、活躍の場面を増やす。自主性やリーダーシップを育てるため、多くの生徒に様々な役割を設ける。
3年	学級活動や委員会活動に意欲的に取り組もうとする気持ちは高まっているものの、他者と協同することが苦手な生徒が多い。	自主性やリーダーシップが育つように、行事や学級・委員活動などで全ての生徒に役割をもたせていく。

1.3 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
1年	横浜移動教室の取り組みで交流を行った。共同学習では、実態に合わせて体育・国語などの授業に参加することができた。体育では、運動会で交流学級に入り、全員リレーを行うことができた。国語では、横浜新聞作りを行うことができた。	運動会の全員リレーでは、運動会1ヶ月前のリレー練習の最初に自己紹介を行ったり、特別支援学級の教員と一緒に参加したりして、生徒が安心して取り組むような工夫を行う。 2学期以降は、鎌倉校外学習の事後学習の短歌作りを行う。そのため、担当の国語教諭と夏期休暇中に、時間割の調整の打ち合わせを行う。教室では、座席に考慮しながら活動させていく。
2年	毎週月曜日に行われる学年朝礼や学期末の学年集会に参加し、クラスの成長したところや課題について発表した。体育では、運動会で交流学級に入り、全員	運動会の全員リレーでは、特別支援学級の生徒の前後の走者をコミュニケーション力のある生徒にしたり、特別支援学級の教員と一緒に参加したりして、生徒が安心して取り組むような工夫を行う。

	リレーを行うことができた。	2学期以降は、校外学習の事後学習の短歌作りを行う。そのため、担当の国語教諭と夏期休暇中に、時間割の調整の打ち合わせを行う。教室では、座席に考慮しながら活動させていく。
3年	交流学級において体育的行事を実施した。また、修学旅行事前学習は学年全体での取り組みや交流学級での取り組みを実施した。 共同学習では、実態に合わせて体育・国語・英語などの授業に参加し活動した。	体育的行事では、交流学級の一員として通常学級の生徒との区別なくインクルーシブな活動となるよう運動会実行委員の活動を支援した。 修学旅行に向けた事前学習では、6月より全体ガイダンスや事前学習に参加させることにより、校外学習当日も交流を深めるために、学年教員の情報共有及び打ち合わせを密に行う。

1.4 登校支援学級に関する進捗状況（スリジエ学級）

学年	現在の状況	改善のための取組
1年	継続的に授業に参加できている生徒は1名、そのほか3名は別室に登校している。別室に登校する3名は登校時間も異なるため、学習活動の時間がほとんどとれていないことが課題である。	授業に参加している生徒には、本人の問題・関心に寄り添いながら、個に合わせた教材を使用する。そのほかの生徒には、専任教員が毎日決まった時間に別室に入り、学習のサポートを行う。その際、カードゲームやボードゲームなどの教材を活用し、生徒が学びやすい学習を展開していく。
2年	校外学習などの学校行事に積極的に参加することができる。一方で、生徒によって学習の進度や意欲が異なるため、一斉指導による学習に困難を抱える生徒もいる。加えて、自身の学び方を確立できていない点に課題がある。	教材への共同注視や協働学習など、これまでの一斉指導による学びの良さを生かしつつ、指導の個別化と学習の個性化を図り、生徒が自分に合った学び方を見出すための支援をしていく。
3年	生徒によって学習進度や進路が全く異なるため、一部の教科では、3学年の学習と1学年の学びなおしにクラスを分けている。また、放課後（通常の6限）に補習を行うなど、生徒の学習意欲に添っている。	定期的な面談や学習相談で生徒理解を深め、個に合わせた学習指導を計画する。また、自分自身を見つめなおしたり、キャリアを考えたりする時間を設け、進路に合わせた教科指導や特別活動を行う。